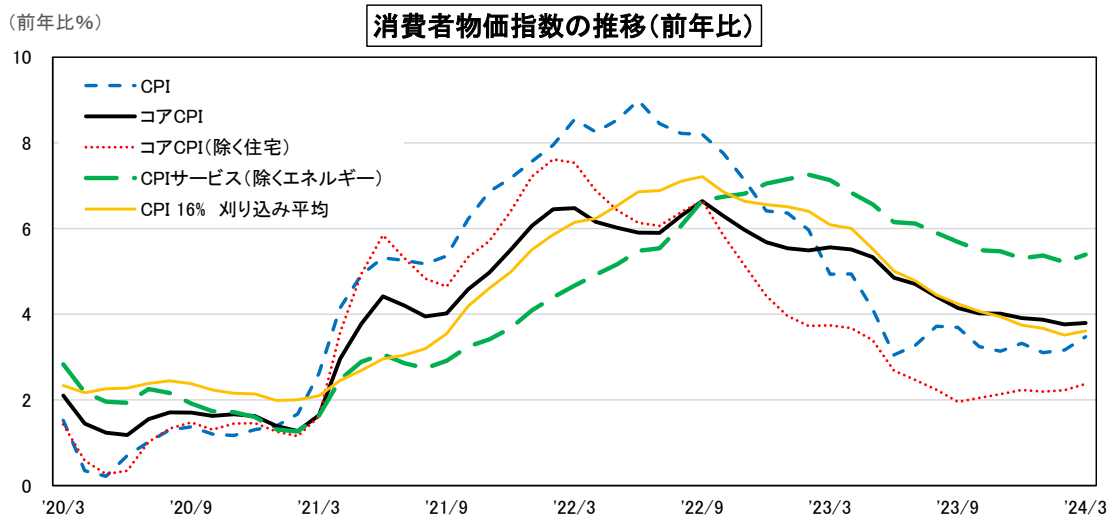
リサーチ＆ソリューション第１部　佐古 佳史

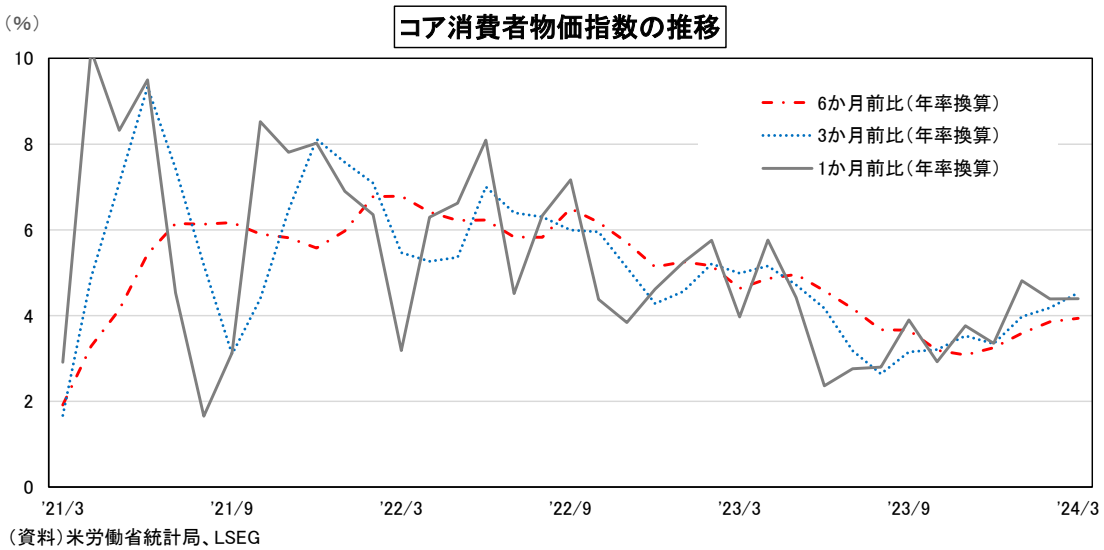
（米国）加速が続くCPI、鈍化が続く財PPI

3 月の消費者物価指数（CPI）は、総合が前年比 3.5%（前月比は 0.4%）、食料とエネルギーを除くコアは同 3.8%（同 0.4%）となり、インフレ指標の鈍化はみられなかった。エネルギーを除いたコアサービスの上昇率は変わらずの前月比 0.5%となった。内訳をみると住宅費は同 0.4%、輸送サービスは同 1.5%、医療サービスは同 0.6%となった。全体としては、3 月 CPI は前月から小幅に加速したといえる。



（資料）米労働省統計局、LSEG

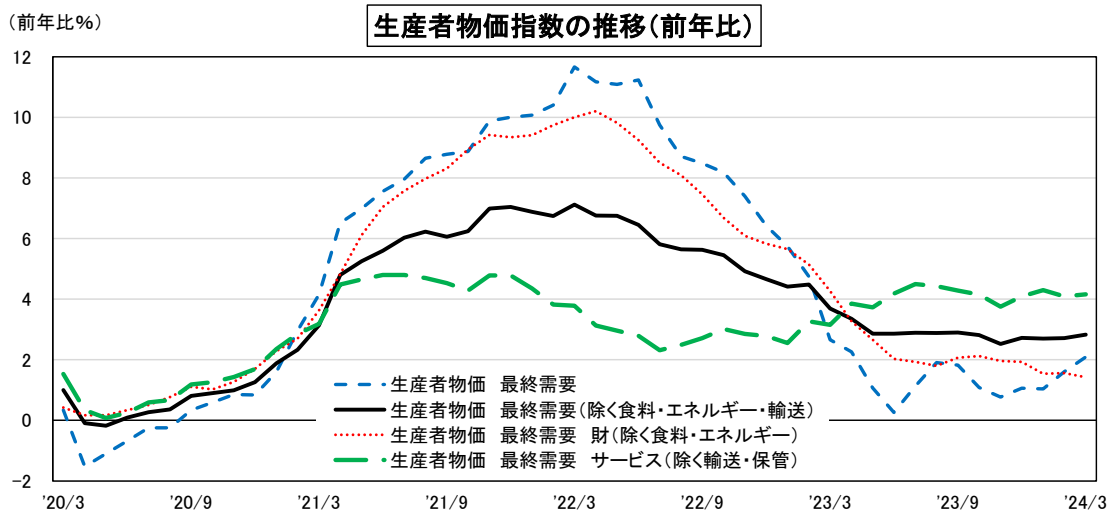
コア CPI についてより足元の動きを確認しやすい 1、3、6 か月前比（年率換算）を計算すると、3 月はそれぞれ 4.4%、4.5%、3.9%となった。23 年末と比べると、緩やかに加速しているため、（PCE デフレーターで測った）2%物価目標と整合的に動いているとはいえない。



（資料）米労働省統計局、LSEG

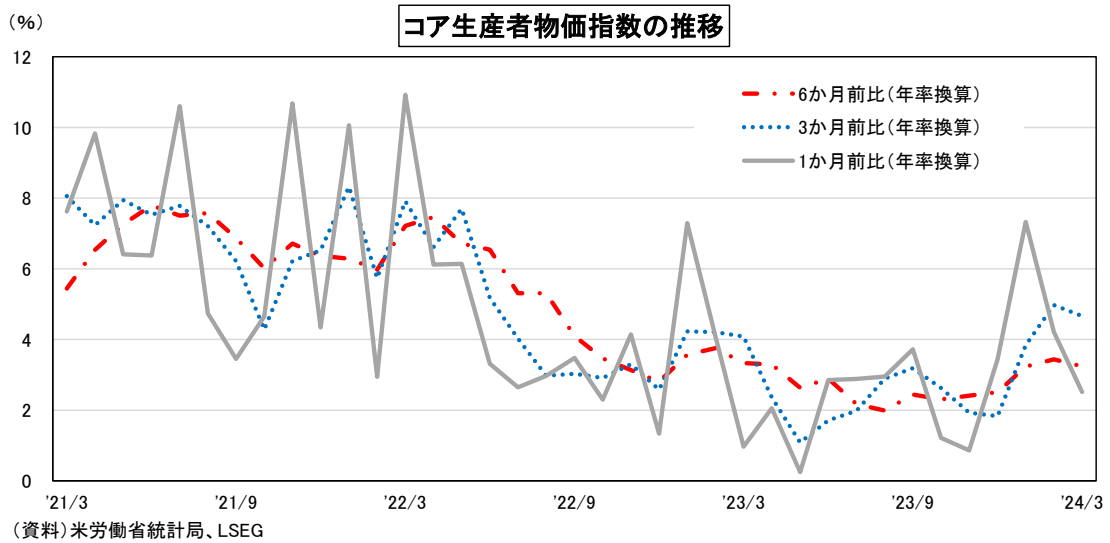
ここに掲載されているあらゆる内容の無断転載・複製を禁じます　https://www.nochuri.co.jp/

3 月の生産者物価指数（PPI、最終需要区分）の動きを確認すると、総合は前年比 2.1%（前月比 2.1%）、食料・エネルギー・輸送を除くコアは同 2.8%（同 0.2%）となった。内訳をみると、財（除く食料・エネルギー）については前年比 1.4%と同 10.2%とピークをつけた 22 年 4 月から鈍化傾向が続いている。一方で、サービス（除く輸送・保管）については同 4.2%となり、CPI と同じくあまり鈍化していない。



（資料）米労働省統計局、LSEG

最終需要から、食料・エネルギー・輸送を除いたコア PPI について、より足元の動きを確認しやすい 1、3、6 か月前比（年率換算）を計算すると、3 月はそれぞれ 2.5%、4.7%、3.2%となった。振れ幅は大きいものの、23 年末と比べると、やや加速している。



（資料）米労働省統計局、LSEG

3 月 CPI が鈍化しなかったことを受け、複数の FOMC 参加者が利下げを急がない姿勢を強調したこともあり、6 月利下げの可能性はほぼなくなったといえる。現段階では、利下げは早くても 9 月 FOMC 以降、多くても年内 2 回と考えられるが、足元ではインフレの鈍化がみられず年内利下げが難しくなる可能性も考えられ始めている。

ここに掲載されているあらゆる内容の無断転載・複製を禁じます　https://www.nochuri.co.jp/